

2023.4.20



地域日本語支援ニュース こだま 第430号

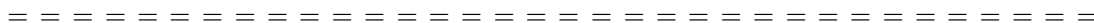
ともに生きる
～地域で、日本で、そして世界で～



★―― メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。――★
【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★―― 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。――★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■新年度のご挨拶■

公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
理事長 戸田 佐和

みなさま、こんにちは。
咲き誇る桜とともに新しい年度が始まりました。
いつもメールマガジン『こだま』をお読みいただきましてありがとうございます。

世界は、今、ようやく新型コロナウイルス感染症の蔓延（まんえん）から解放され、会えなかった人との再会を果たし、触れ合い、じかに語り合うことの大切さを実感していることと思います。一方で、各地で起こっている紛争や迫害、自然災害等により住む場所を奪われ、避難を余儀なくされている人々がいます。そのさなかにある方々が一日も早く、当たり前前の日常を取り戻せるよう願わずにはられません。

人の移動が再開し、昨年度日本は多くの外国の方を迎え入れる年となりました。AJALTはこれまでと変わらず、日本語教育を通じて世界の人々との相互理解の促進と世界平和のため、公益法人として貢献するという理念のもと活動してまいります。

『こだま』は、ホットな情報をお届けし情報共有の橋渡しとなるようなメールマガジンを目指して配信を開始しました。支援のネットワークが拡がり、課題解決の糸口となることを創刊号より願い続け、今年6月丸20年を迎えます。

この間、思いのこもった、力強いご寄稿と読者のみなさまに支えられ号を重ねてまいりました。コロナ禍においても、工夫しつつ常に寄り添う活動を続けてこられた支援者の方々の記事には、私自身も、一読者として大いに励まされました。

草の根の支援活動が人を動かし、自治体を動かすことを知り、多文化共生社会実現のために力を尽くしていらっしゃるみなさまに深く敬服しております。

最近、ウクライナから避難された親子を迎え入れた町の方から、出会いがきっかけとなり、新たな支援の種がまかれたというお話を伺いました。

町の方々は、これまで外国の方と共に暮らす経験がなかったそうですが、自分ができることがあればと動き出し、地域の行事に呼ぶ、行事を企画する、病院への送り迎えをする、買い物の手伝いをするなどを買って出て、一つひとつは小さなサポートではあるものの、現在この親子お二人にとって心強い支えとなっているということです。

このようにこれまでみなさまが積み上げてこられた支援が全国で次々実践されています。

『寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいるあたたかさ』。これは、よくご存じの俵万智さんの歌です。国籍を問わず、挨拶やわずかなやりとりを交わすだけで幸せな思いがするものです。慣れぬ地で生活を始める人にとっては、ささやかな交流が安心感につながるのではないのでしょうか。これがまさに「言葉の力」です。

節目の年となります新年度のテーマは、2021年度、2022年度に引き続き、「ともに生きる ～地域で、日本で、そして世界で～」です。来日し、全国に定住し、支える立場でも活躍されている方々の声、コロナ禍以降の各地での新しい試みについてお伝えできればと思っております。

今年も『こだま』をよろしく願っています。